

平成27年度 有田町立有田中部小学校 学校評価結果

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
有田を愛し、夢や希望を持って、明るく元気に生きる児童を育成する。	基本的な学力を身に付けさせるための「分かる授業」「楽しい授業」を展開し、課題解決に向けて、粘り強く取り組む姿勢を育てる。善悪を正しく判断し、社会のルールを守る規範意識や礼儀を大切に心、自分とともに相手を尊重する優しい心や態度を育てる。「心と体の健康」に関心を持ち、望ましい生活習慣を身に付け、進んで心と体の健康づくりに取り組む姿勢を育てる。

達成度
 A: ほぼ達成できた
 B: 概ね達成できた
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む



3 目標・評価							
教職員の資質を高め、児童の学力向上を図る。							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	教職員の資質向上	校内研究の推進	校内研究で授業実践を重ね、授業力向上を図る。	授業研究会に主体的に参加し、「分かる授業」づくりの研究を深める。	C	児童アンケート、保護者アンケートとも目標に5%ほど届かなかった。教職員のアンケートでも、自己の指導力向上に努めたと答えた割合が90%であった。この指標割合は、是非100%としたい。	授業研、事前研で全職員が授業を公開し、指導力向上を図りたい。講座、研究発表会等に積極的に参加し、伝達講習等を積極的に行う。初任者研修の実施を、全職員で再度、指導の在り方を見つめ直していく機会とする。
		教師の授業力向上	児童アンケートで、「授業が分かる」の割合を85%以上、保護者アンケートで「授業を工夫している」の割合を80%以上にする。	日々の授業実践を重視するとともに、自らの授業を振り返り、改善を図る。研究会、講座等に積極的に参加し、自らの資質の向上と情報収集に努める。			
教育活動	学力の向上	個に応じた指導の充実による基礎学力の向上	学力検査で、前年度から標準化得点が向上した児童の割合を増やす。	朝のドリルタイムで、国・算の基礎的内容の定着を図る。	B	学力検査の結果、前年度から向上した児童の割合は、微増でほぼ前年並みであった。ドリルタイムの複数指導体制や課題プリントの見直し等行ってきたが、個別指導の在り方を再度検討する必要がある。	年度当初にドリルタイムの在り方を再検討し、課題や方法を絞り、全校統一して実施する。理解に時間のかかる子への対応をきめ細かく行うため、TT担当以外の職員の活用等も検討する。特に、配慮を要する児童への支援を組織的に行えるよう、コーディネーターを中心に体制を整えていく。
		教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	「分かる授業」「楽しい授業」づくりの推進	電子教科書やICT機器の活用例についての情報交換を進める。			
学校運営	開かれた学校づくり	地域と連携した体験活動の推進	地域の人材を活用した体験活動を通して、地域との連携を進める。	教育活動に地域人材を活用し、地域のよさを体感させる。	A	校内焼き物展、折鶴焼き物作り、碗琴指導、読み聞かせ等の学習活動で地域人材の活用が図れた。	体験活動で得られた知識や技能を生かす取組を学校行事や各教科等で意識して組み込むようにする。
		積極的な情報発信	保護者アンケートで「学校の教育方針・内容を概ね知っている」の割合を80%以上にする。	学校便り、学校メール、ホームページ、各種会合等の機会をとらえ、情報発信の機会を増やす。			

児童へのきめ細かな支援を行い、心の教育を充実する。							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	心の教育	いのちの教育、人権教育の充実	一人ひとりを大切に教育活動を推進する。	「いのち」「平和」をテーマに全校集会を実施し、各学年・学級の取組につなげる。	B	担任の指導の在り方、児童の状況で学級が混乱した事例を確認した。複数指導体制をつくり、当該児童等への指導、保護者との連携を強化し、立て直しを図った。	児童とのふれあい、児童理解が学校・学級運営の前提であるとの意識の下、一人ひとりを大切に実践活動を行う。
		生徒指導・教育相談	規律ある学校生活の確立	廊下歩行、トイレのスリッパ並べを始め、無言掃除など具体的目標を示し、全職員で共通理解をして、臨場指導を行う。			
	いじめの問題への対応	いじめの早期発見・早期対応に向けた体制づくり	教育相談体制を充実させ、保護者やスクールカウンセラーとの連携を図る。	いじめに関するアンケートを年2回程実施し、状況把握に努める。	A	アンケート結果は84.8%であった。	アンケートで把握した課題をクラスで共有したり、必要に応じて全校集会につなげるなど、いじめの撲滅に学校全体で取り組む姿勢を持つ。
		特別支援教育	校内支援体制の充実	適性就学及び個のニーズに応じた支援に努める。			
特別支援教育	特別支援教育	個別の対応や支援を必要とする児童が相当数存在している。	5月と2月にアンケートを実施するとともに、検査や参観等で支援を必要としている児童を把握する。	A	アンケート結果は84.8%であった。	個別の対応や支援を必要とする児童が相当数存在している。コーディネーターを中心に、個々に応じた支援が実現できるよう体制整備を図っていく。	

望ましい生活習慣を身に付けさせ、心身の健康を育む。							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	健康・体づくり	児童の体力向上	体育的行事に「進んで楽しく参加している」児童の割合を増やす。	持久走やなわとび月間等を設定するとともに、「外遊び」を励行し、楽しく体を動かす機会を増やす。	A	持久走、なわとび週間を設定し、全校をあげて取り組んだ。また、県のスポーツチャレンジにも積極的に参加できた。	体育的活動に進んで楽しく参加できている割合は高いので、継続していきたい。
		健康な体づくりへの意識の向上	健康に関心を持ち、食についての理解を深める。	養護教諭、栄養教諭を中心に健康教育、食育を進める。また、給食試食会を通して、保護者への啓発を行う。			
低学年の学習環境の改善・充実	低学年の基本的な学習・生活習慣の育成	「人の話を聞く」「あいさつ・返事をきちんとする」「学習用具をそろえる」の定着を図る。	日々の生活の中で、学習習慣・生活習慣を意識させ、指導を継続する。	B	学校での様子と家庭や校外の様子に差があるようである。低学年のうちきちんと身に付けさせたい。	学校での取組について保護者と共通理解し、歩調を合わせて習慣付けができるようにしていく。	

4 本年度のまとめ・次年度の取り組み

- 学力向上では、学習状況調査結果も若干低下傾向が見られており、改善が必要である。また、授業の在り方についても、保護者等からの評価は決して高いといえる状況ではない。児童も多様化している中で、個に応じたきめ細かな対応がさらに求められる状況にある。指導方法の改善や家庭学習の習慣化・充実をめざして、学校が一体となって取り組んでいく必要がある。
- 「わかる授業」「楽しい授業」づくりを目指すには、深い教材研究、教科・単元による効果的な授業形態の選択等も考慮していかなければならないので、校内研修を充実させ、具体的実践につなげていきたい。
- より良い学級集団・学習集団作りのために、来年度もQUテストを活用した実態把握を行い、課題に応じた体制を整備した上で、組織的に対応していく。
- 学校生活でのルールやマナーの定着に課題がある。心に響き、習慣化につながるよう、全職員、全校児童で取り組んでいける方法を早急に検討し、徹底して取り組んでいく必要がある。

は共通評価項目、 は独自評価項目